

平成22年度

第1回 鶴岡地域審議会  
会議録（概要）

期日：平成22年7月7日（水）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

## 平成22年度 第1回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成22年7月7日（水） 午後2時～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

### ○ 出席委員（五十音順）

阿部和博、五十嵐修、五十嵐寅吉、五十嵐松治、延味孝太郎、後藤輝夫、加藤玲宗、今野毅、今野利克、齋藤春子、荘司正明、竹内峰子、茅野進、早坂剛、本間孝夫、山田登

### ○ 欠席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、遠藤勲、佐藤正廣、早坂裕子

### ○ 市側出席職員

企画部長 小林貢、市民部長 秋野友樹、健康福祉部長 山木知也、  
農林水産部長 菅原一司、商工観光部長 石塚治人、地域活性化推進室長 吉住光正、  
調整課課長補佐 佐藤光治、地域活性化推進室係長 粕谷一郎、  
地域活性化推進室主任 飯野剛

〔辞令交付〕 欠席委員を除く、16名の委員に辞令交付

1 開 会 (午後2時) 進行：吉住地域活性化推進室長

2 あいさつ 鶴岡市長 榎本政規

委員の皆様には、公私共に何かとお忙しい中、平成22年度の鶴岡地域審議会にご出席を賜り、心より感謝申し上げます。

このたびの審議会は、委員20名中5名を公募といたしまして、合わせて20名で鶴岡地域審議会をお願いし、委員の皆様には忌憚りの無いご意見を頂戴したいと考えているところでございます。よろしくお願いいたします。

新鶴岡市として5年目を迎えておりますが、前市長の下にいち早い一体感を醸成するためにいろんな施策を講じて参りました。おおよそ市民の皆様のご支援の下に、大過なくこの大きな鶴岡市が市政の運営を行って行くことが出来たのかなと思っている次第でございます。改めてご出席の委員の皆様、また合わせて市民の皆様に御礼を申し上げる次第であります。

市町村合併によりまして、東北一広い行政面積を持つ鶴岡市でございます。ただ大変残念なことに平成17年10月に14万2千ほどあった人口が、4年を経過して13万9千を切るところまで落ち込んできております。昨今の経済情勢から、今年春の新卒の高校生の就職難で若い人達がなかなかこの地域で働くことが出来ない、あるいは未だに有効求人倍率が0.45で止まっているような雇用状況で、非常に厳しい状況に追い込まれておりますが、それでも市が合併したことによりまして、この鶴岡市に大きな資源とか財産が増えてきたのだらうなと思っております。先人の皆様が作り上げてきた歴史や文化、あるいは伝統であり産業であり、多くのまだまだ磨けば光る資源・資産を私は持ちえていると思っております。平成20年に今後10年間を見通す鶴岡市総合計画が作られました。その中にも、地域の多様性を発揮して、なお一層鶴岡の活性化に取り組んでいくことが書かれています。私はこの観点から、あらためて地域審議会のあり方について少し考え、検討をさせていただいたところです。今までは年度当初に1回だけその年度の事務事業を報告し、皆様からご意見を頂くだけでありましたが、今年度からは年度の事務事業の報告と共に、各地域審議会において、これらのもてる資産をどう活用しながら地域振興ビジョンを作り上げていくか、鶴岡市の総合計画にどうすり合わせをしながら、新しい鶴岡の発展について、見識のある委員の皆様の忌憚りのないご意見をいただきたいなと思ひまして、今年度より改めて20名中5名を公募にいたしましたところです。皆様にはよろしくお願いいたします。

既に昨年10月23日の就任以来、市民の皆様と語り合う車座ミーティングを行っておりますが、市民の間には色々な意見がございまして、車座ミーティングで寄せられた意見とともに、これから始まります地域審議会の委員の皆様から寄せられた考え、アイデア、発想をこれからの鶴岡の発展に活かしていきたいと思っております。

合併特例債は合併後10年間、平成27年度までとなっております。平成28年度からの5年間は段階的に縮減され、地方交付税が一般算定とされる平成32年には、現在の地方交付税の約30億位が減る可能性があると言われております。これはあくまでも想定であります。こういうところに向けてどうソフトランディングしながら鶴岡市の行財政を取り組んでいかなくてはならないか、6月1日に行財政改革推進委員会を立ち上げまして、行財政に対するご提言をいただこうと思っております。行財政改革推進委員会と各地

域審議会は私にとってはまさしく車の両輪のごとく、片方では行財政を考えていただきながら、もう一方では地域振興ビジョンについて積極的なご提言をいただき、鶴岡市の発展に取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうか忌憚の無いご意見・ご提言をいただければなと思っております。この地域審議会、一度のみならず、皆様のご提言があれば地域テーマを設けて2ないし3回、あるいは4回と開催して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくご審議、ご協議そしてご提言をいただきますようお願いを申し上げます。あいきつとさせていただきます。よろしくお願いたします。

### 3 委員紹介 (吉住地域活性化推進室長)

#### 4 会長・副会長の選出

- 吉住室長 会長、副会長の選任につきましては如何いたしましょうか。
  - 本間孝夫委員 委員の互選となっておりますが、事務局で案があったらお話ししていただいた方がよろしいのではないのでしょうか。
  - 吉住室長 それでは、事務局の案ということで発表させていただいてよろしいでしょうか。
  - 一同 異議なし
  - 吉住室長 事務局提案といたしまして、会長に鶴岡商工会議所会頭の早坂剛委員、副会長に鶴岡市婦人会連合会会長の齋藤春子委員をご提案したいと思います。
  - 一同 異議なし (拍手)
  - 吉住室長 それでは、皆様のご了解をいただきましたので、早坂会長様、会長席にお移りいただき、一言ご挨拶の後、議事を進めていただきたいと思います。
  - 早坂会長 只今ご指名いただきました早坂と申します。暫時の間、進行役を努めさせていただきます。
- それでは、報告事項について、事務局説明をお願いします。

#### 5 報告

(1) 平成22年度予算及び主な事業の概要について(説明:吉住地域活性化推進室長)

【資料1】【広報つるおか 平成22年度鶴岡市予算特集号】

(2) 地域課題調査等の取組みについて(説明:粕谷地域活性化推進室係長)

【資料2】

- 早坂副会長 只今、(1)と(2)について、説明がありましたが、皆様お分かりになりましたでしょうか。地域課題調査等の取組みについては、昨年度取り組んだことと、平成22年度これから取り組む課題について説明した訳でしょうか。
- 粕谷係長 昨年度調査の結果を踏まえての調査もありますし、昨年度十分な調査が出来なかったものの継続調査を含めての調査であります。
- 早坂副会長 昨年度とは委員の顔ぶれは替わっていませんか。
- 吉住室長 学識経験者と改選があった団体の代表の方が交代しています。
- 早坂副会長 4年前に1市4町1村が合併した訳ですが、すべての旧市町村に地域審議会が置かれており、合併をした前と後で住民サービスなどの差異やその要望を聞くことが

この会の目的であった訳ですが、これからはこの鶴岡市、地域をどうしていくのか、この審議会で市のほうに色々と提案していこうというのが目的ではないかと思うのですがどうでしょうか。市長もお話ししておりましたが、合併して毎年千人位の人口が減っているという状況にあります。我々はこの鶴岡地域において環境の変化を踏まえながらこれからどうしていくのか議論するということが会議の目的ではないかと思しますので、ご理解をいただきたいと思えます。昨年は1回しか開催しなかったようですが、私はそれではとても足りないと考えております。皆様がよくすれば回数を増やしてもう少し細かく議論していきたいと考えておりますので、その辺についてもご意見を頂きたいと思えます。それでは、協議に移りたいと思えます。

## 6 協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて (説明：吉住地域活性化推進室長)

- 早坂剛会長 協議テーマを決めるにあたり、事務局の方で事前にアンケートをお願いしておりますので、その内容について各委員から3分位にまとめてご説明をお願いします。
- 山田登委員 前から合併に伴って町内会、自治振興会、その他駐在員などの組織がありますが、それぞれの地域での町内会類似の活動が、どのように行われ、何が課題となっているかというようなことを情報交換しながら、一緒にやっていけるものは何があるかというようなことから取組みを始める必要があるのではないかと意見交換してきました。今年度も町内会の会費、その他の経費負担等について情報交換をしたのですが、深めることまでは出来ませんでした。話し合いの過程で多岐に渡り、色々な考え方のご意見が出て大変参考になったと感じております。これは、各団体の方に持ち帰って、更に検討することにより一緒にやっていけるものの方向性が掴めるのではないかと考えているところです。鶴岡市は、山村部あり、平野部あり、海岸地あり、都市部ありということで、今までの歴史的な経過を尊重してやっていかなければなりません。特に自治組織であるので、ある一つの法則を決めてその法則の中に縛るというよりも、やはりそれぞれのコミュニティが今までのしきたり、伝統の中でより発展的にやっていけるものは何なのかと突き止めていくことによって、一致団結して自治組織活動が出来るのではないかとということで、鶴岡市町内会連合会の正副会長会議ではこのようにまとめたところです。
- 五十嵐寅吉委員 鶴岡市の自治振興会は15地区がありますが、その中で市に対し長年要望していた、西郷地域と由良地域のコミセン建設が予算化されたことで喜んでるところでございます。ただし、小堅と加茂、田川地区についても老朽化と狭隘化が激しいので、これも継続事業として要望をしていきます。郊外地では1人暮らし世帯が年々増えていることが一番の課題ではないかと思っておりますので、せつかくの機会でもあり、委員の皆様のご意見も参考にしたいと考えています。
- 早坂剛会長 市内の町内会はいくつあるのでしょうか。
- 山田登委員 102の町内会で、小学校単位に6つのグループに分かれています。
- 早坂剛会長 これまで自治振興会と一緒に議論したりすることはなかったのでしょうか。
- 山田登委員 今まではありませんでしたが、最近は情報交換の機会を作っています。
- 早坂剛会長 わかりました。それでは、今野毅委員をお願いします。
- 今野毅委員 1つ目は、農村地域においては後継者が不足しているということでもあります。

が、一概に後継者の不足が農業を担う人の数が減少ということではなく、規模の拡大、農地の集約ということもありますので、いずれにしても限定されている担い手すら確保が難しくなっている現状があります。加えて先ほどから話が出ています中山間地域の森林、田畑も含めたそれら保持が非常に困難になっていくのではと、これは全国的な傾向でもありますが、非常に懸念されていることであります。これに対しては行政のみならず農協としても厳しくとらえており、対応しなくてはと認識しているところであります。2つ目は、最近特に話題となっております地産地消ということですが、これらが地域の食に十分活かされていないのではということ、地元の農産物あるいは、旧来から伝わる在来野菜を使ったそんな料理の色々な宣伝、観光と結び付けたものへ、是非啓蒙して、あるいは拡大していきたいなど、もちろん我々生産側の責任もある訳ですのでそれに対する連携を密にしていきたい。加えて学校給食への供給等も拡大していかななくてはならないということは農協としても喫緊の課題としてとらえております。3つ目は、「だだちゃ豆」は全国的に通用するブランドと自負しておりますが、今から 20 年近く前に J A 鶴岡が、市や県からの指導・援助もありましたが、自らの広告宣伝費をかけ頑張ってきて、今や冠たる「だだちゃ豆」ブランドとなっております。しかし、我々の努力のみとは言いませんが、地域をあげて「だだちゃ豆」を冠にした色々な商品、派生商品があるにもかかわらず、地域のものとして更に発展させていく、あるいは商品群を充実させていくことからすると、もう一歩進んだ色々な基金ですとか様々な仕組みを地域あげて作っていく必要があるのではないかと当農協は前から訴えておりました。その辺を行政等にも是非中心的なシンボルとなって取り組んでいただきたいと思っているところです。それからもう一つ、先ほどの話に若干関連するかもしれませんが、22 年度の地域農業調査研究事業として、大泉地域の若手生産者云々、戦略的云々について、それはそれでよろしいのですが、実際のところ鶴岡市の農業の核、背骨と言われる部分は、西郷地域の水田、そして広大な砂丘地を背景としたメロン含めた園芸特産の大産地、J A 鶴岡で 30 数億の園芸特産品の販売がありますが、その 2/3 近くを西郷地域が担っていると言っても決して過言ではありません。そのことからすると、大泉地域の良質米云々は、それはそれでよろしいのですが、それ以上にその辺のところにもう少し焦点を当てた農業振興策、あるいは担い手育成など色々なことの仕組みを作っていくと、鶴岡の農業産出額、農産物の生産額というのは少なからずマイナスの方向に行くのではと非常に懸念しております。今の農業事情からすると専業農家ほど経営的にも厳しい部分がある現状、農協としても必ず取り組まなくてはならないことですので、予算措置についてもお聞きしましたが、平成 22 年度についてはそういったことへの聞き取り調査であったり、何らかのプロジェクトであったりを是非行っていただきたい。私も農協、農業は地域の岩盤であると自負して頑張っておりますので、様々な団体からいろいろな意味で鶴岡農産品のご愛顧といいますか啓蒙、ご利用等をお願い申し上げたいと思っております。

- **延味孝太郎委員** 本市の観光振興について、資料広報の 4 P 「観光文化都市宣言」の欄に、ほとんどの主要部分は出ておりますので、そういうようなものの今後の進め方と申しますか、基本計画的なものに載せられるものを、これから逐次お願いしていきたいなと思います。観光面で一番主体となるのは、観光振興、それから地元の素材の発掘、そういうものによってこれから益々交流人口を増やしていく、そして地域振興、活性化を図っていく。これが一つの大きなテーマとなりますので、それに向けて後はテーマを

具体的に絞って進めさせていただければありがたいと思います。関連でございますが、配布されました『鶴岡市総合計画 3 ヶ年実施計画』の参考資料の 11 ページに「新しい施策の調査・検討」とありますが、これに関連して発言させていただきたいのですが、先ごろ新聞報道等がありました鶴岡公園内にお角櫓の復元ということについて、鶴岡商工会議所から市に要望が出されているようです。以前にも「でがんす」から「致道館」、「鶴岡公園」、「致道博物館」への沿線上にお角櫓の設置の動きがあったと聞いております。観光面からは強く、すごく関心を持っておりまして、要望を受けた市の対応と検討、今後の予定等がお分かりでしたらお聞かせいただければありがたいと思います。

- **早坂剛会長** お角櫓の件は、鶴岡商工会議所の観光部会の方でプランを練っておりまして、今月から来月には、保存会のメンバーとの設置に向けた意見交換会を予定しているというところまで進んでいます。
- **延味孝太郎委員** わかりました。今後、観光素材として期待できると思っているのでもろしく願います。
- **茅野進委員** 私は鶴岡市社会福祉協議会の理事ではありますが、鶴岡市小学校区の 21 の学区地区社協の会長としての立場で発言させていただきます。『鶴岡市総合 3 ヶ年実施計画』を見せていただきました。市長のはじめの言葉の中にあります、市民・行政・地域が協調して安全・安心な町にするということは学区社協の基本の柱でもありますので、同じであると感じたところです。問題点としては、3 ページにある「今後とも複雑・多様化する福祉ニーズに対応するため、関係機関・団体との協調・協力の面においてどうであろうかと考えた場合に、まだまだ地域に入ると縦型意識が多いので横の連携をどう図ればよいのか、お互い同士のコミュニケーションの難しさもあるので、モデル地区だけでなく、行政からも数多く入っていただくことを最初にお願ひしたいと思います。それから 20 ページ「お互いに顔が見える地域コミュニティづくり」という構想がありますが、個人情報保護法、人命尊重の両面で、防災と福祉との連携が果たしてなされていますでしょうか。例えば、私のほうで福祉防災マップを作り、住民の実態と支える人がどの位いるのか踏まえておりますが、「防災と福祉は別である」と考える地域のリーダーがいるので大変難しいのです。行政の方で、町内会連合会、民生児童委員、社会福祉協議会の 3 団体による会議を開いていただき、関係者、リーダーの研修会も是非開催していただきたいと要望申し上げます。最後に、24 ページにきめ細かな地域福祉活動を進めたいとありますが、それには福祉ワーカーの育成だけではなく、もっとボランティアや地域を支える福祉協力員など人材の育成を図っていくような手立てを行政に担っていただきたいと思っています。学区地区社協の立場から住民主体の新しい地域福祉の考え方について、若干述べさせていただきます。
- **五十嵐松治委員** アンケートには民生児童委員の制度の維持についてとおおげさに書きました。今も話しがありました。民生児童委員の働きとかそういうことについてまだ十分に知られていないということで、私たちは日々 PR 活動を兼ねながら福祉活動についている訳です。民生委員法にもあるのですが、常に社会奉仕の精神を持って住民の立場に立って福祉活動をするということを心がけています。少子高齢化の影響を受け年々高齢者が増加し、経済不況のあおりを受け様々な生活困窮者が増加するなど、社会では福祉課題が複雑・多様化しており、民生児童委員の福祉活動量も年々増加しています。その中で民生児童委員の活動をどのように有効的な福祉の面に活かせるのか常に危惧し

ていますが、民生児童委員一人が担当する定数が国の基準として、人口 10 万人以上の市は 170 から 360 世帯と定められており、住民の過疎化や局地的な増加の地域においては、定数以上の世帯数を抱える状況が出てきています。多い人は 360 世帯を超え 500 世帯を超える方もいます。全体的には人口が減り、高齢者が増加し、そして地域課題が増えている中、民生児童委員の業務が過重となって出てきています。この状態をどのように改善していけばよいのかが、私の悩んでいる状況です。旧鶴岡市だけで言えば、増加の傾向にありますが、旧町村部では過疎に悩まされており、担当数は少なく済むが、広くなったエリアの中、夜や冬に数人の要援護者を回らなくてはならない状況の中、どう解決していけばよいのか大きな問題だと思っております。このプランの 8 ページの重点方針にもありますように、市民・地域と行政が協調・協力して、安全・安心に暮らせるようにするという方向性の中、温かい福祉の地域づくり、子育て、子供たちの置かれた状況をいかに改善するか等、非常に多様な課題を抱えながら、今年は改選期を迎えています。年々改選期毎に町内会長さんは非常に苦勞されて推薦者を探していますが、なり手がいないという現状があります。改選のときに全部まとまらなければ、3 年間の任期を通じて是非補充していく体制をとらなければなりません。どのように推薦の仕方、補充の仕方の仕組みを作っていくかということについて、何か良い方法があれば教えていただきたいと日々思っています。それが無いと民生委員自体に「自分の替わりを探せ」などと言われても、そういう過重を背負わされると民生委員のなり手がいない中で益々閉鎖的になりますので、こういう面と合わせて、私たちが置かれている現状の中で、これらの課題を解決する術をこの協議の中で皆さんと一緒に話し合えたらと思っています。

- 早坂剛会長 鶴岡市の中で民生児童委員は何名いるのでしょうか。
- 五十嵐松治委員 鶴岡市全体で 357 名です。
- 早坂剛会長 組織としては市全体で一本化になっているのでしょうか。
- 五十嵐松治委員 一本化になっております。
- 早坂剛会長 承知しました。
- 五十嵐修委員 本来であれば会長が出席すべきですが、私が地域審議会の担当ということで指名されたものですから、お話を聞きながら、問題点を探しながら、発言をさせていただきたいと思っています。各地域の P T A の活動としては、学校、P T A、それから地域の方々の協力のもと、いろんな行事とか子どもたちが安心して学校生活を送れるように、保護者が協力しながらバックアップしているわけです。地域、各単 P があり、行事を一生懸命やっているところなど多少の温度差もあるわけですが、悩みとか困っていることとかについては、P T A 連合会としては今のところ話題としてあがってきていないのが現状です。新聞を見ると各単 P では、子どもの田植えなど色々な活動を盛んにやっていることが目に見えておりますけれど、これから色々な問題が出てくるかもしれないので、そういった時にはこの場でご意見をいただきたいと思っています。私は田川小学校なのですが全校児童が 43 名です。湯田川小学校も 50 人切っているということで各地域の P T A の現状を聞くと各学校とも少子化ということで、減少傾向にあるようです。その中で色々な行事を通じてとか、小さいなりにチョットした問題点もあるわけですが、今年度か来年度あたりに学区編成という話が出ると思っています。学区編成によって地域の学校の在り方も変わってくると思うので、もしその方向性がわかれば教えていただきたいと思っております。今後も地域の皆様と協力しながら、

保護者として学校の子供たちの元気な姿を見守っていきたいので、皆様方からも色々な意見をいただければと思っております。

- **加藤玲宗委員** アンケートの 1 は直接、審議テーマには関係ないのですが、関連事項として申し上げます。日頃からスポーツ活動を通して、スポーツの振興発展、普及促進に意を尽くしているものでありますが、心に強く感じていることの所信の一端を述べさせていただきます。審議会委員のスポーツ会代表としてこの場にいる私にとりまして、鶴岡市全域のスポーツ活動等がどのような現状にあるのかお伝えする、そして理解していただくことも私の義務ではなかろうかという考えから申し上げますが、スポーツを体験し、学び得るものが青少年の育成に如何程の価値があるか、もう言うまでもありません。そしてスポ少活動、あるいは中学校の部活、高等学校の部活等の総括が毎年度 4 月・5 月頃になされますけれども、それにおいても明らかなように、彼ら彼女らの日頃の鍛錬、学習、遠征、大会出場、或いは地域社会への好影響に寄る成果は、計り知れないものがあるかと思えます。彼らの心身の成長を即し、勝敗の有無に関わらず、素晴らしいものを具現しております。或る場合においては、毎年、体育協会が主催しているスポーツ交流会、講演会があるわけですが、この中で全国大会に行った中・高・一般の方々数名から、体験発表をしていただいているわけですが、この場でも企業の方も一般市民の方も涙を浮かべながら聞くという感動的な場面も多々見られるところです。又、生涯スポーツにつきましても、色々な種目、高齢者から若い人まで、素晴らしい活動が小真木原体育館、武道場、公園広場を中心に展開されているところです。スポーツ活動の全市の現況なり、あるいはスポ少の数がこの地区には幾つあるのか、中学校・高等学校の運動クラブは県大会でどの位のレベルにあるのか、生涯スポーツというのはどんな種目でどのような活動をしているのか、国のスポーツ政策の一環として事業展開されている総合型地域スポーツクラブは、鶴岡地区にどんな形で、幾つあるのかなども私が情報発信しながら、スポーツに対する理解を深めていただき、地域の活性化、進展に供するような動きをしていきたいなとそんな風に思っているところでございます。今、日頃の団体の活動を通して感じていることを申し上げましたが、これはテーマにも関連してくると思えます。それから、2 番の協議するテーマについては、地域に内在する各分野のエネルギーの源泉を地域の力として活用する方法はないものかと考えているところです。先ほど市のほうから説明のありました、5 つの鶴岡ルネサンス宣言、その 1 の創造文化都市宣言、これは地域の可能性を伸ばすということ、それから 2 番目、観光文化都市宣言、全国規模の大会を鶴岡に誘致すれば、観光的な役割が十二分に果たせると思えます。以下、3、4、5 とありますけれども、すべてに関連するようなことが、私が思っているこんなことができないかということの内容ではなかろうかと、その辺を私自身ももう少し学びながら、皆さんと共に一緒に務めていきたいなとそんな風に思います。
- **後藤輝夫委員** それでは 13 万 8 千人の 28.4% を代表して申し上げます。3 ヶ年実施計画の冒頭、市長さんが書いている文章の中に「伝統を重んじる気風がある」という風にあります。そして「少子高齢化と人口減少の進行しているこの時代の大きな潮流に加えて、安全・安心を確保するその地域の実情といった場合に、市民・地域・行政が協力・協調する」という文言がありますが、提案されている内容や報告は、これは行政が力点を置いて目指しているところでもあります。今日の委員は、各界をあるいは地域を代表する委員でありますけれども、28.4% を占める高齢者の立場からすれば、市民としての立場、

高齢者の視点で物事を考えていただきたいというのが私の念頭の発言であります。と申しますのは、私は中山間地というか山間に近い集落に住んでおり、昭和 50 年代半ば以来の住民会の総会の資料を持っておりますが、川掃除がありまして、35 年前 50 歳の人は、今日 85 歳であります。1 人暮らしあるいは体力がない、義務人夫をやるということができない、そうした伝統的な慣習が未だに行われていることに対して、個人ではどうにも改善の余地は無いということから、旧鶴岡市のみならず、新市を含めてこのような慣行の実態を調査していただきたいというのが、第一の問題であります。出不足料は、昭和 50 年代半ばから今日まで 2,500 円であります。作業に出た人達は実働 1 時間位で中休み半分位、高齢者は川に入ることも出来ないために、非常に苦勞しておりまして、出不足料の収入を見れば、120 世帯のうち、40 世帯になったり 30 世帯があったりという現状を行政でも各種団体でも見えないし、地域を代表する人達はましてこれまでの慣行を改善するという視点は持っていないと思うのです。第二の問題は、高齢者の足の手段、交通手段が失われているという実状であります。運転免許証の無い人でも、運転者会が安協と変わったために歩行者も会費を納めるようになってきているという現状、これはどこで把握できるのか、単に私の一地区だけの問題なのか、このようなことが全市的に行われているとすれば行政の指導をお願いしたいという問題の 2 点であります。更に言えば、デマンドバスの運行の問題が出ておりますが、高齢者自身が免許証を自主返納してもその後の足の確保がない。都市部に通院治療に行くとしても、足が無いこうした高齢者に対する特別の優遇策などもお考えいただければありがたいと思います。以上が生活の中で見える 3 つの問題であります。通じて言えば今、高齢者の占める割合が多く、子どもが少なく、そして生産人口の少ない人達が目の上のたんこぶは高齢者であるというような風潮があまりにも強いと思います。自治の名の元にそれらの中間層がものを決定することによって、高齢者の発言は封じられます。意見を取り入れてもらえないのです。そういうことからすれば、行政からお力を頂かざるを得ないということからして、とにかく人材の育成だと、青年層も壮年層も老年層も共に一同に会し、研修して行って、意見交換しあったりしてこのまちづくり、活性化をしていくという点を強調して終わりたいと思います。

- 齋藤春子委員 今まで地域審議会に 4 年間参加しましてこの会は一体何なのかと思いました。少しギャフンとしたのが、朝日とか櫛引で実施したと聞こえてくるのに鶴岡はやっていなかった。そうすると、これは地域だけの問題なのかと考えまして、地域審議会のどうしても地域でやらなければならないのは何だろうと、そこを考えながら今まで参りましたが、今のところ考えているのは、それぞれ、先ほどコミュニティ調査研究というところに鶴岡地域事業、それから各庁舎事業と書いてありますが、私は地域毎に特色があつてしかりだと思えます。合併したのも形だけで、内容的な、例えばコミュニティということを中心に地域づくりを進めてきたのは鶴岡地域ですよね。そのコミュニティの進め方がこれでいいのか、やはり大事なことは地域づくりでないかと思えます。例えば櫛引で公民館活動を本当に地域の人がそれぞれ老若男女参加しながらワイワイやっています。それはコミュニティでないからダメだという風にはならないのではないかと。その地域の活性化に繋がるものであれば、というそこから発想を持っていかないと地域審議会という意味は無いのではないかと。各団体、ここで問題点を出し合うことは結構だと思いますが、鶴岡地域としては何が問題かということをもまずは考えてみては如何でしょ

うか。少し不満なのですが、先ほどの地域コミュニティ調査、調査しましたとありましたが、途中でも良いのでこういう問題がありましたとこの場に出してもらいたいです。そうすれば意見交換できます。そういうやり方で、今後何回か開催するという事ですので、細かいことは申し上げませんが、地域の特色を活かした地域審議会であって欲しいとお願いしたいと思います。せっかく良い調査をやっているのに、しましたばかりで結果がでていません。そんなことを不満に思い、述べさせていただきました。

- **阿部和博委員** 鶴岡市消防団、平成20年4月に今までの6つの消防団が一体となりまして、新鶴岡市消防団ということで結成して、3年目を迎えております。現在、団長以下3,300名の消防団員がおり、旧鶴岡市、鶴岡地域には1,300名の団員が日々消防活動に従事しており、私が言うのも何ですが365日臨戦態勢という状況にあります。消防団を運営する中で、色々問題点もありますが、最近は団員のサラリーマン化という非常に大きな問題があります。以前ですと自営業の方があられましたけれども、最近の団員は事業所に勤務されている方がほとんどで、日中災害等が発生してもなかなか現場に集まることができないという問題も出ております。まして昼の時間帯ですと勤務しておりますので地元の災害にも出動できないというような状況になっています。それで、行政の方から協力を得まして、日中の消防力の不足の部分を補うべく何とか消防のOBの方から、消防団時代に培ったいろんなものを発揮していただくべく「消防協力員制度」をつくりました。昨年度267名の方から協力をいただいて、今年度と合わせて定員600名という消防協力員体制を構築しようとして現在計画しているところです。先ほど申しましたとおり、サラリーマン化ということで、現在の消防団活動も各事業所の協力が無ければ出来ないような状況になっております。市のほうでも「消防団協力事業所証交付制度」ということで、消防団員がある程度所属する会社に協力証を交付したりしていますが、それ以上にもう少し行政の方からも協力してもらえればよろしいかなと考えております。例えば、法人税の減税とかあれば会社の方でも協力していただけるのではと私なりに考えています。他にも色々方法はあるかと思いますが、いずれにしても事業所の協力なしには活動できないという状況になっています。また、各地域とも地域防災として10代から70代までの方が一つの目標に向かって活動している組織というのは消防団しかないわけです。昔は農村地帯に行けば青年会とか青年団とかあったわけですが、今ほとんどそういうものはなくて、消防団が唯一、青年組織といえますか、そういうものを担っているのかなと考えております。各地域のリーダー、活動団体のリーダーといえますとほとんどが消防団のOBであります。そういう意味からしますと、消防団というのは、防災の面ばかりでなく地域の人材を育てる場ではないかという考えもあります。まして、今の若い世代といえますと自分さえよければという考えの中で、消防団員としてそれを投げ捨てても地域の防災のために頑張っているということですので、消防団を通して地域を見直していくひとつの場になっているのかなというふうに考えております。もう一つは、自主防災組織というのは、旧鶴岡市内の各小学校区単位にありますが、その連携についてもなかなかうまくいっていないところもあるので、少し地域の方から連携を深めるような活動をお願いしたいと考えているところであります。先ほど高齢者の一人暮らしということで話がありました。火災は絶対おこしてはならないわけでありまして、鶴岡市消防団の女性消防団員という方々も現在19名おります。ソフト面での活動ということで、例えば一人暮らしの高齢者の方を女性団員が訪問しまして、防災につい

て話をする機会も設けております。そういったことで、とにかく火災を出さないということに頑張っておりますので、引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。先ほどテーマが色々でございましたけれど、やはり消防団としては、コミュニティづくり、人づくりという部分でテーマを進めていただければありがたいかなと考えております。

○ **本間孝夫委員** 去年、一昨年あたりから鶴岡市農政課や地域活性化推進室と森の産直カー、田麦俣の過疎化の問題と一緒に勉強をさせていただきました。一つは森の産直カーという素晴らしい制度についてですが、今年度から自立するというので、その自立した後の事業的にどうやっていくのかというような相談を受けたものですから、去年、実際に森の産直カーと一緒に地域を回りました。そして、先ほどから出ています地域の高齢化の問題で、買物難民という言葉が今出ていますけれど、実際にそれを感じたのです。パソコン上で生鮮食品も含めて全部買物が出来るというイオン系のネットスーパーが出来ました。山形南店でスタートしたのですけれども、その利用が集中した為に、次の日、パンクしてしまって、受付が出来なくなってしまいました。それほど、買い物に不便をきたしているという人が一杯いるということです。それがやはり、先ほど老人クラブの会長さんから出ましたけれども、免許証の返上と平行して、一人、二人暮らしの老人の方の買い物が大変困っているという実態、森の産直カーに非常に頼っている人がいるということが具体的に見えました。そんなこともあって、是非この制度を行政側で支援できないかと思っております。それからJAの組合長がおっしゃった特産品の在り方です。私は遊佐町の特産品推進委員になっております。遊佐町では2年に1回、特産品を選定し、町として推進するというか、パンフレットに載せるのですが、そういう制度があつて、非常に皆さん農産加工品を作っている方が頑張るのです。1点が特選、推奨が20点位あるのですが、それを得るためにどんどん改善するのです。ですから市での農産特産品を推進するため外部に、ようするに地産地消ではなく地産他消と思っております。そういう意味で素晴らしい素材が一杯ある鶴岡市ですから、そこらへんをもっと活かせるそういうものがあるのではないかなということで、その意見をこの会議に出れば、出せるのではないかと思いい今回、応募させていただきました。

○ **今野利克委員** 私も公募組なのですが、公募の段階から想像には難くありませんでしたが、行政のリーダーの方、地域の各団体のリーダーの方、あるいは人生の大先輩の皆さんの中で、甚だせん越なのですが、あえてこの年代の声を発する機会など得られればと思いい応募させていただきました。私は10年ほど地元の金融機関に勤務してありまして、家庭の変化などの経緯がありまして、今は民間の会社の方に勤めておりますけれど、やはり、仕事の上でも地域の疲弊という言葉がよく聞かれますけれど、いろいろな面で痛感することがあります。ただ、一人ひとりの思いや考え、我々世代でもただの酒席であつても気がつく、行政の話であつたりとか地域の話題であつたりとか、結構熱く語る機会が実際多いです。ですから一人ひとりのマンパワーというものは我々世代であつても相当持っているなど、それを集結させる手立てを行政の方からも何らかの後押しというか、背中を押していただければ、我々世代も庄内特有の、良く言えば奥ゆかしさと言いますか、中々自分が自分がという、私もそうなのですが、その辺をバックアップしていただければと思っております。あと、私も阿部団長の下で消防団活動をしてありまして、消火活動以外にも応急手当の普及員とかさせていただいておりますので、各防災組織、コミセン、町内会等の方からも大いに利用していただければ、喜んで出向いて行き

たいと思いますので、その辺も行政あるいは医療機関と連携するような形で大いに利用していただければありがたいなと思っております。森林文化都市構想の中にある六十里越街道のNPO団体にも所属しております、まだまだ観光資源の面でも大いに利用価値がある素材だと思いますので、その辺も行政の方と連携して活動していければと思っております。行政サービスのコンビニエンス化、フレックス化云々と記載しましたがけれども、身近なところではつい先般も報道されておりましたけれども、今年度の軽自動車税の納付率がコンビニ利用を進めたことにあたって、顕著に上昇したようです。全部が全部コンビニでという意味でのコンビニエンス化ということではなくて、単語としての利便性を図るという意味のコンビニエンス化なのですが、その辺を行政の皆さんに対しては釈迦に説法だとは思いますが、合併しない宣言で一躍脚光を浴びた福島県の矢祭町の事例であるとか、あるいは比較ということを書きましたけれども、両極端ではありますが阿久根市の取組みも思いは行き着くところは同じ、その辺は一長一短あると思っておりますがご検討をいただいて、この発言の場をいただければありがたいなと思っております。

○ **荘司正明委員** 私はスポーツ店に勤務しているのですが、店にいるとゴルフとかトレーニングとか様々なスポーツをする元気な高齢者の方を多く見かけるのですが、一方で要介護を必要とする高齢者の方も年々多くなっていると聞いております。要介護まで必要ないのですけれども要支援の方とか、特定高齢者の方も多数おられると思うのですが、私はこうした要支援者とか特定高齢者の方が、要介護にならないように体力づくりとか筋力トレーニングとか介護予防が今後、益々大事な課題の一つになるのかなと思っております。要支援者や特定高齢者の方々が要介護に進まないことによって、本人はもちろん家族の人達の負担も軽減できますし、医療費の抑制にも繋がる大事な課題だと思うのですが、行政とか地域のこれに対する取組みですね、そういうものを聞きたいと思っております。

○ **竹内峰子委員** ひとつは先ほどもPTAの方からも出ましたけれど、学区再編成の問題です。近い将来、避けて通れない大事な課題という風に思っております。少ないからではなくて、偏り、市街地においては偏りが出てきたのかなと、今、鶴岡市においては第六学区がものすごく増えているわけですがけれども、東根市では、街の中の3つの小学校を2つにすると聞いています。やはり鶴岡においてはやはり偏り、バランスが取れなくなってきたのかなと、あと郊外地においても、先ほど来、**30**何人とか言っておりましたが、私は三瀬なのですけれども、年々減って今**80**人を切りました。今年の小堅小学校の入学式に行きましたら、「来年は一人だなやのう」と言っていたのが、たまたま転校生がありまして、**2**名でした。両父兄と合わせて**4**名ぐらいでの入学式、それもまたほのぼのではありませんが、やはり避けて通れない、少なければ少ないなりのいろんな問題があるので、またそういったものを近いうちに取り組んでいかないとならないのかなと思っております。確か**10**年位前に学区編成会議を**1**年位やって、その後、頓挫したように記憶しています。それが一つと、それから少子化といいながらも鶴岡市では数値的には待機児童がないことになっていきます。郊外地の方の保育園が定員になっていないのですが、市内の方は本当に満杯で、今、特に乳幼児の待機児童が多くいます。働きたくても働けない親御さんがたくさんいる中で、市の対応としては無認可保育園を勧めるのですが、収入によっては、認可保育園と無認可では**2**万円の差があるので、親御さんはどうしても無認可保育園には行けないという中で、7月現在でもまだ自分の順番が来ないと来年の

4月かということで大変苦勞しているという声が聞こえてきます。そういうことからすれば、そういったことの解消にも是非取り組んで欲しいなと思います。

- **早坂会長** どうもありがとうございます。如何でございましょうか。今皆さんのご意見を聞きますと、齋藤委員の方からもお話しありましたようにもっと深掘しなければいけないのではないかという意見があり、強かったようです。コミュニティ調査研究事業とそれから農業調査研究事業という2つが昨年ありましたけれど、このコミュニティは皆さんの話、また出身母体と言いますか、コミュニティが一つの大きなテーマになっていると思いますし、それからもう一つは、今までは農業だったのですが、これに私どもの商業とか工業とか、観光も入れた形でのテーマ、コミュニティと農工商観光という2つのテーマに分けたらどうかと思うのですが、如何なものでしょうか。
- **今野毅委員** 私も初めてこの会議に出席させていただき、色々な団体のお話を聞いた中では、やはり各団体の方々の認識とそれから私ども営利を目的とする地域産業との中では若干論点が違う訳です。ただ繋がっていることでは、確かに皆さん地域に生きていますし、鶴岡市という行政体の中におりますので、そういった意味ではもっと論点を絞って深く下げるといったような手法は、せつかくこのような審議会があるのですから、会長が提案されたような形の中で、コミュニティはコミュニティの中でよろしいでしょうし、地域の経済的な部分を一つのジャンルとしてやったら如何かなと私も同感ですので是非賛成したいと思います。あと、できれば、もうちょっと若い方々の意見も聴取する場があればなど、オブザーバー的な部分でも結構でしょうし、やはり若い人がいなくなるというのが、先ほどの市長の話にもありましたし、私も実感しておりますので、そういったことからすると経済の活性化という部分で全て結びつく訳です。少子高齢化イコールそれらは全て地域経済の活性化に端を発しているということが大前提にあるのではないかなと私はこのように思うわけですので、そういったところの手法など意見を聴取する場も是非あれば、それは本当に地域の考え、地域を如何に良くするかという大前提に沿うのではと思うわけなので、そうなるように期待申し上げます。
- **早坂会長** ありがとうございます。今野委員の方から賛成の意見が出てまいりました。よろしいでしょうか。それでは、テーマは地域コミュニティということと、経済問題といたしましょうか、地域振興と言ったらよいのか、農商工のこの辺の名称は別にして、2つのテーマに委員の皆様から分かれていただきたいと思います。今、出身母体を見ますと、やはりコミュニティの代表的な方々とそれから経済的なところとありますので、学識経験者の方々はこれからご希望を取りたいと思いますけれども、この辺のところを分科会として2つに分かれて、それで分科会で議論したことを終わりに全体会として発表していただくような形式に持っていきたいと思うのですか如何でしょうか。
- **全員** 異議なし。
- **早坂会長** それでは、私のほうから提案させていただきますけれども、分科会の所属ですが、コミュニティの方には、山田委員(町内会連合会)、五十嵐寅吉委員(自治振興会)、茅野委員(社会福祉協議会)、五十嵐松治委員(民生児童委員)、五十嵐修委員(P T A連合会)、加藤委員(体育協会)、後藤委員(老人クラブ連合会)、齋藤委員(婦人会連合会)、阿部委員(消防団)から入っていただき、産業の方には、今野毅委員(J A)、五十嵐吉右衛門(森林組合)、遠藤委員(漁協)、延味委員(観光連盟)、佐藤委員(青年会議所)、そして私(商工会議所)に分類させていただきたいと思います。学識経験者の方々

からはどちらかに分かれていただきたいのですが、如何でしょうか。

- 本間委員 経済の分科会でお願いします。
- 今野利克委員 コミュニティの方でお願いします。
- 荘司委員 経済の方でお願いします。
- 竹内委員 コミュニティの方でお願いします。
- 早坂会長 2つに分かれて丁度よいのではないのでしょうか。分科会の委員長といたしますか、代表、進行役なると思いますが、コミュニティのほうが山田委員、経済の方が今野毅委員にお願いしてよろしいのでしょうか。
- 両委員 (了解)
- 早坂会長 それでは次回まで今日お話しになったことをもう少し整理していただいて、それで分科会を1時間位、残り30分位で全体会をやるようにもっていききたいのですがよろしいのでしょうか。
- 全委員 異議なし
- 早坂会長 事務局、それでは次回は大体いつ頃を予定していますか。
- 吉住室長 事務局としては、8月の後半くらいに日程を設定したいと考えております。
- 早坂会長 来年度の予算に関わるような我々の方から提案があるとなれば、年内一杯位までには提案事項が必要となってくると思しますので、次回は8月の後半にして、3回目を11月位にして、市に我々の方からプレゼンできるような何かあれば持っていきたいと思しますが如何でしょうか。
- 今野毅委員 事務局体制はどのようになるのでしょうか。
- 吉住室長 全体の事務局は地域活性化室でやらせてもらいますけれども、テーマが決まりましたら、それぞれテーマに対する担当のところからも出ていただくなりして、事務局として一緒にやっていく体制をとりたいと思っています。
- 今野毅委員 コミュニティ関係は誰とか、地域活性化室も分かれるのか。
- 吉住室長 同時開催を想定していますので、分担してやらしていただきたいと思います。
- 早坂会長 この会の事務局は粕谷さんが担当しますか。
- 吉住室長 地域審議会の事務局は、地域活性化室全体で担当していますが、直接の担当は粕谷で結構です。
- 早坂会長 粕谷さんが2つの分科会の事務局を兼務してもらおうということで如何ですか。
- 吉住室長 それで結構です。
- 早坂会長 ですから、粕谷さんが分科会に必要な人達が、今日のお話しを聞いて、出ていただきたい担当部局の方には資料を出していただくことでよろしいのでしょうか。それでは、実のある審議会にもって行きたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いします。

7 その他 なし

8 閉会 (午後4時30分) (吉住地域活性化推進室長)